

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4150280024		
法人名	医療法人社団 芳香会		
事業所名	グループホーム西唐津駅前		
所在地	唐津市西唐津1丁目6167		
自己評価作成日	令和6年 3 月 30 日	評価結果市町村受理日	令和6年8月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	令和 6年4 月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ol style="list-style-type: none"> 嚥下障害を無くす目的で毎食前・おやつ前に嚥下体操をする。 冬場の乾燥肌予防に、保湿剤のオイルを入浴後に塗る。 管理栄養士による10品目の食材を使った献立で調理・管理している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>市内の中心部から近い住宅街に立地している。バスや電車の交通機関が整っており、県外の家族でも訪問しやすい。鉄筋3階建ての構造になっており、1階は会議室、2階と3階でホームを運営されている。入居者の個別対応に力を注がれており、冬場には法人内でブレンドした保湿剤を使用して清潔保持が行われている。また、定期的に勉強会を開催しており、特に入居者への声掛けに対して熱心に勉強されている。入居者からの個別の要望を聞き出し、ホーム付近の散歩や季節に応じたお菓子作りを職員と行っている。アウトホームな雰囲気を作り出す工夫がなされている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
	ユニット名	ユニット名		ユニット名	ユニット名
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	○	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	○
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	○	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	○
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	○	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	○
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	○	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	○
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	○	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	○
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	○	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	○
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	○			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念と年間目標を連帯のノートを利用し情報共有・実践している。	理念は事務室内に掲示されている。年に1回の内部研修で理念に関する研修会を開催し、管理者と職員で理念の共有が行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の保育園児との交流で保育園児は祖父や祖母の感触を、入所者様は孫やひ孫との感触を感じられる。 現在は中止。	コロナ感染症以前は、保育園や小学校との交流がなされていた。現在は、感染症の影響から中止している。地域とのつきあいの再開については、これからである。	回覧板がホームに回ってきており、地域行事の情報収集がされている。地域とのつながりが再構築されることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所通信(おたっしゃ通信)にて施設の状況を発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の意見交換や提案を重視し職員全員でサービスに生かすようにしている。	2ヶ月に1回開催されている。欠席者には議事録を持参されている。入居者の状況報告やホームで楽しめる行事などについて情報共有されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃より連絡を密にし市からの情報は全員が確認サインで周知徹底している。	市の担当者とは協力関係が構築されている。介護保険関係の問い合わせや研修会の案内など定期的に連絡をやりとりされている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体の目標で職員全員理解し拘束をしない介護の為、学習・目配り・気配り・心配りのケアを実践している。	身体拘束をしないという理念を掲げている。ホーム内に掲示しており、職員間で共有されている。外部研修にも参加し、申し送り時に報告等をされている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体の目標で職員全員理解し些細な変化にも気づくように注意し防止に努める。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の理解の為研修や勉強会に参加し必要な利用者には活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明で理解していただき不安が残らない支援をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の活用や面会時の意見・要望を聞くように心掛ける。	入り口付近に意見箱が設置されており、積極的に家族からの意見を聞くように努められている。また、ホーム専用の携帯電話から家族に連絡を行い意見を取り入れられている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	連絡ノートを利用し、情報のやり取りを行いスタッフは意見・要望が言える環境作りをしている。	管理者側から職員に声かけをするようにしている。話がしづらいときは、数人で来るようにしてもらい意見が言いやすい環境づくりに配慮されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の能力に合わせた職務・分担にて責任とやりがいを果たせる様に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修には代表を参加させ資料は全員に回覧し理解してもらう。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者の勉強会に参加しサービスの向上に取り組んでいる。 (コロナで中止してたが徐々に再開)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者に馴染んで頂けるよう様、その人の生活歴や趣味等を知り、言葉掛けを行い安心して過ごせるよう関係作りに努める。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人・家族・施設の信頼が重要と考え可能な限り希望に沿う様にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要な支援を見極める状況把握し「その時に」応じた柔軟な対応が出来る環境作りに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族的な雰囲気作りに努め、個々の能力に応じた役割分担を時には職員の手伝いと共に行う環境作り。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と共に入所者様へ関わりを持ち互いに協力をしやりがいを持った良好な関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今の関係を継続し親戚・友人・知人の訪問を歓迎している。 (コロナで中止していたが徐々に緩和)	知人や友人の訪問を受け入れて馴染みの人との関係継続を大切にされている。また、馴染みの場所に出かけるなどの工夫もされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格や自立心を考慮し言葉掛け時には職員が間に入り関わりををもって頂けるように支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も家族からの相談にも応じる様に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話からさりげなく聞き取るようなスキルを日々意識させている。 また、気軽に希望をいえるような雰囲気作りに努めている。	日々の会話から本人の意向を聞き取るようになされている。また、家族が面会に来た時にも意向を聞き取り、支援につなげるようになっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の生活歴・趣味・特技等を把握し施設で活かせる様に工夫している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各職員が日々の観察を十分に行っている。 介護記録・バイタルチェック等で現状を把握し申し送りや連絡ノート・気づきノートで情報の共有を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画はスタッフ・家族の意見も反映させ本人のやる気と充実感を味わえるように計画を立てている。	モニタリングの時に職員から意見を聞き出すようにしている。往診時に主治医からの意見なども聞いて計画に反映するようになっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	スタッフ全員が介護計画の記録と評価をして情報を共有し現状に合ったケアを実践に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物に行きたい・散歩に行きたい等の要望に応じて柔軟な援助を行っている。 家族様の要望には施設内にてよく話し合い柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	情報誌へのアピール等地域資源を活用しながら楽しむことができる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望に応じて往診・受診できる様に努めている。	かかりつけ医は入所契約時に希望を聞いている。緊急時以外は、往診で対応されており、往診後は情報を職員間や家族と共有をされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	契約病院の契約訪問診療や相談をこまめに実施しており、1階の訪問看護ステーションにて異常時の協力も得られてる。医療連携加算にて24時間の対応をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に病院へ状況確認しご家族様も安心して治療できるよう情報の提供・相談しやすい環境を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	系列病院・看護師・介護職・家族様と情報交換し、共に変化に備え検討し準備している。	重度化や終末期については、入所契約時にホームの方針を説明されている。食事の摂取状況をこまめに把握し、主治医と密に情報共有を行い変化に備えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルの整備により全職員が対応できるように訓練している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	様々な場面を想定した災害対策と訓練を日頃から実施している。火災通報装置には緊急連絡が自動で通報出来るようになっている。	消防署の立会いで年2回の避難訓練を実施している。また、非常食が備蓄されており、災害対策がなされている。しかし、地域との協力体制はこれからである。	地域の消防団と一緒に避難訓練の実施をしたいとの思いはあり、運営推進会議などを利用して災害時の協力体制の強化に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人が人生の先輩として尊敬し利用者様として人格を尊重し関わっている。又、家族の親しみをもって対応している。	入居者への声掛けやプライバシー保護の配慮について職員間で確認をされている。カルテなどの個人情報の資料は、外から見えないところで管理されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の自己決定を重んじています。そのため自由に話が出来る雰囲気・信頼関係関係作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活の流れを職員側のやり易さに合わせるのではなく利用者様に合わせている。忙しい時でも話しかけられたら、きちんと向き合い話を聞く。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人一人の希望に沿った化粧・髪型、服装をしていただき自分で出来ないところはお手伝いしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	後片付け等出来ることを分担し職員と一緒にしている。又、彩りや味付けなどの工夫をして楽しめるようにしている。	誕生月の入居者には、食べたい物について意向を聞いている。聞いた内容はできるだけ、おやつなどに反映されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日10品目の栄養素を取り入れる工夫をしている。又、個人に合った調理を行い完食出来るように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	夕食後の歯磨きの徹底し入れ歯の方は職員が仕上げを消毒行っている。又、食事前には必ず口腔体操を行い口腔を意識した支援をおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導を行いトイレでの排泄を促している。一人一人の排泄パターンの把握に取り組んでいる。	職員が気にかけてトイレ誘導が行われている。夜間帯も入居者の睡眠状況に合わせて声掛けを行いトイレ誘導されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バランスの良い食事・適度な運動・水分摂取にて自然な排便に心掛けている。病的や頑固な便秘には薬の使用も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人一人に合わせて入浴できるように支援している。お湯の温度、入浴時間も希望に沿うようにしている。	週3回の入浴を行っている。入浴拒否がある場合は、入居者のペースで入浴を促している。しょうぶ湯など季節に応じた入浴も実施されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に応じて休息をとれる支援しており夜間安眠の為昼間は寝すぎない様支援し薬の服用も時と場合によっては使用することもある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬ノートや各個人の薬箱で管理、服用前には氏名・日付け・時間の再確認している。又、病院・薬局との連携をとっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の特技・趣味が活かされる様、レクリエーション等に活用している。またそれが仲間の役に立っているとの満足感にもつながっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気が良い日は定期的に散歩や買い物・ドライブなどを行っている。	家族の協力を得るなどして、花火大会や花見、お祭りなどへ出掛けている。また、買い物支援のため、定期的な外出も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人での金銭管理が出来る方は自分で記録し管理が出来るように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望者には電話や手紙の支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同エリアには季節ごとの作品などを掲示し季節を感じてもらおう。夜間は安眠の為照明を工夫している。	入居者と職員が協力して季節ごとに作品を作り、掲示されている。共用の空間では職員の声が響かないように声の大きさに配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングは食事以外は決まった席ではなく自由に移動し会話される。一人でほっとできるような場所も設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具などを自由に持ち込んでいただきその人らしい部屋作りをしている。	各部屋は個室になっており、家具などの持ち込みにより、その人らしい居室になっている。安全、安心にも配慮しており、導線の確認などもされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	内部はバリアフリーにて安全で動きやすい構造である。物の配置にも工夫している。		